

# 病院の「再編統合」報道の経緯と医療を取り巻く現状について

9月27日の地元地方紙一面トップで、『424病院再編必要 岩美 西伯 日南 済生会境港』という見出しが躍りました。町民のみなさまはずいぶん驚かれたことと思います。



医療法改正にもとづいて、団塊の世代（昭和22年生～24年生）が後期高齢者となる2025年を見据えて厚生労働省や都道府県が全国の医療圏ごとに地域医療構想をつくっていますが、それにより国は医療機関の病床の機能や病床数の見直しを推進しようとしています。全国の診療データを分析した上で、病床の機能を「急性期」「回復期」「慢性期」の4分類に分け、「高度急性期」や「急性期」の病床を減らして「回復期」の病床を増やすこと及び全体としての病床数を減らすことを目標としています。そして、その手段としては病院間の連携・ネットワーク化、在宅医療の推進、介護サービスとの連携などが想定されています。

鳥取県地域医療構想では2025年に想定される病床数はあくまで参考値だとしていますが、鳥取県西部医療圏での全体病床数は2016年の3,038床から54

3床減って、2,495床になるものと算定しています。なお、機能別の4分類ごとの参考値については示されておりませんが、現在日南病院は99床のうち一般病床59床を「急性期」、療養病床40床を「慢性期」の病床として届けているところでは

## 地域医療構想

- 2025年の医療需要と病床の必要量
  - 高度急性期・急性期・回復期・慢性期の4機能ごとに医療需要と病床の必要量を推計
  - 在宅医療等の医療需要を推計
  - 都道府県内の構想区域（二次医療圏が基本）単位で推計
- 目指すべき医療提供体制を実現するための施策
 

例）医療機能の分化・連携を進めるための施設整備、在宅医療の充実、医療従事者の確保・養成等

## 日南病院の状況

- 診療実績が下位3分の1以下の項目  
がん、心血管、脳卒中、救急医療、小児医療、周産期医療、災害医療、へき地医療、研修派遣の全9項目
- 類似かつ近接する（車で20分以内）病院がある項目  
がん、心疾患、脳卒中、小児医療、周産期医療の6項目中5項目

今回の厚生労働省による報道発表は、地域医療構想の推進を図るために各医療圏に設置されている地域医療構想調整会議での議論がなかなか進捗していないとして、まずは公立及び公的病院の内で、「再編統合」について再検証する必要がある病院の実名公表という形で行われたものです。

厚生労働省の説明によれば、全国424病院の選定基準は「高度急性期」「急性期」の病院中、次の9項目全てで診療実績が下位3分の1以下であること（がん、心血管、脳卒中、救急医療、小児医

